

2022年7月1日 全3頁

内外経済とマーケットの注目点（2022/7/1）

米国の景気後退懸念と中国の経済再開期待が入り交じる可能性も

理事 野間口毅

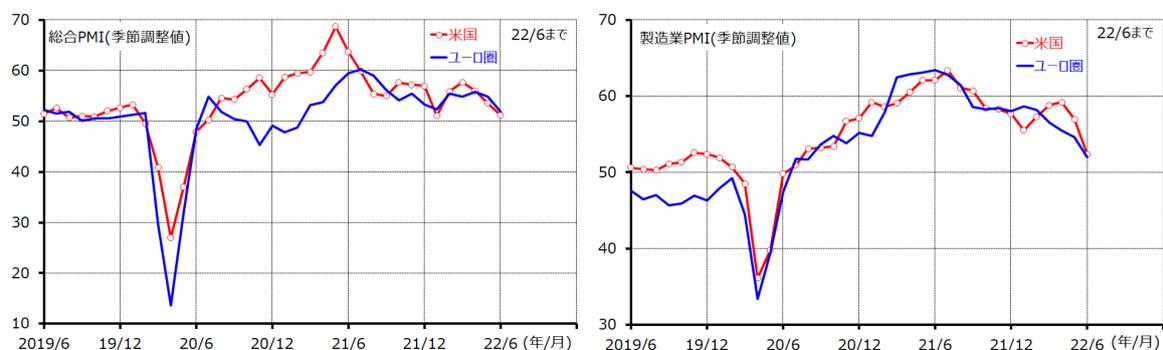
[要約]

- 米国の6月の総合 PMI（購買担当者景気指数）は 51.2 と 5 カ月ぶりの低水準となった。
- 中国の6月の PMI は製造業・非製造業とも好不況の分岐点となる 50 を回復した。

世界銀行のチーフエコノミストは米国の景気後退回避に「懐疑的」と述べた

6/23にS&Pグローバルが発表した米国の6月の総合 PMI は前月に比べて3カ月連続で低下し、51.2 と 5 カ月ぶりの低水準となった。国内外での需要低迷や工場での生産活動の縮小などの影響で、製造業 PMI は 52.4 と 1 年 11 カ月ぶりの低水準となった。また、ユーロ圏の総合 PMI も 2 カ月連続で低下し、51.9 と 1 年 4 カ月ぶりの低水準となった。ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中国のゼロコロナ政策の影響で物流網の混乱が続き、企業の生産活動に支障を来していることから、製造業 PMI は 52.0 と 1 年 10 カ月ぶりの低水準となった。S&P グローバルのチーフエコノミストは米国の PMI について「今や典型的な不況の到来を示唆する水準にあり、景気後退のリスクは高まっている」と指摘し、ユーロ圏の PMI についても「需要が回復しない限り、不況が差し迫っていることを示唆している」と指摘した。

図表 1：米国とユーロ圏の総合 PMI と製造業 PMI

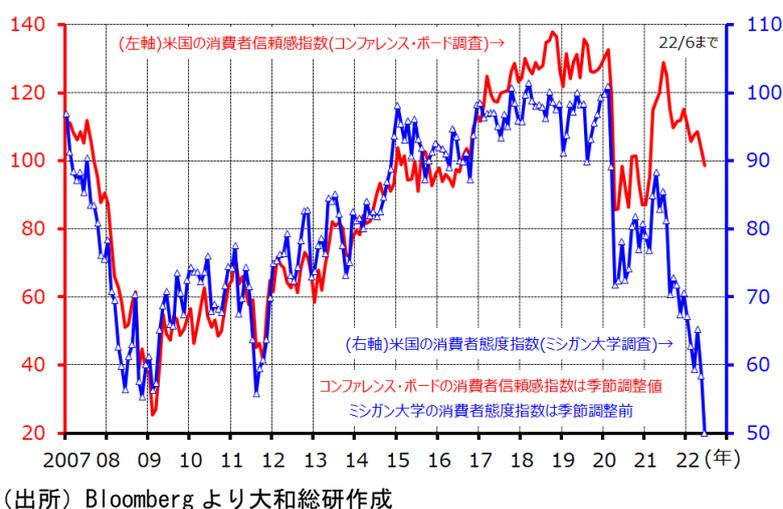


(出所) Bloomberg より大和総研作成

6/24 にミシガン大学が発表した米国の 6 月の消費者態度指数（確報値）は速報値から小幅ながら下方修正され、速報値と同じく 1952 年の統計開始以来で最低となった。しかし、消費者が

予想する 1 年先と 5 年先のインフレ率が速報値から低下したことから、同日の米国株式市場では FRB の急速な利上げ観測がやや後退し、NY ダウは 824 ドル高と大幅に上昇した。一方、6/28 にコンファレンス・ボードが発表した米国の 6 月の消費者信頼感指数が市場予想以上に低下し、1 年 4 カ月ぶりの低水準になると、同日の米国株式市場では景気減速への警戒感が高まり、NY ダウは 491 ドル安と大幅に下落した。実際に、コンファレンス・ボードのエコノミストは「今後 6 カ月、米国の消費と経済成長はインフレと利上げによる強い逆風に直面し続ける。年末に向けて景気後退リスクが高まっている」と指摘した。また、6/29 に世界銀行のチーフエコノミストはロイターとのリモートインタビューで、急伸するインフレや急激な金利上昇、中国の成長鈍化を考慮すると、米国や世界各国が景気後退を回避できるかどうかは「懐疑的」と述べた。目先の米国株式市場では米国の景気後退懸念が続く可能性が高い。

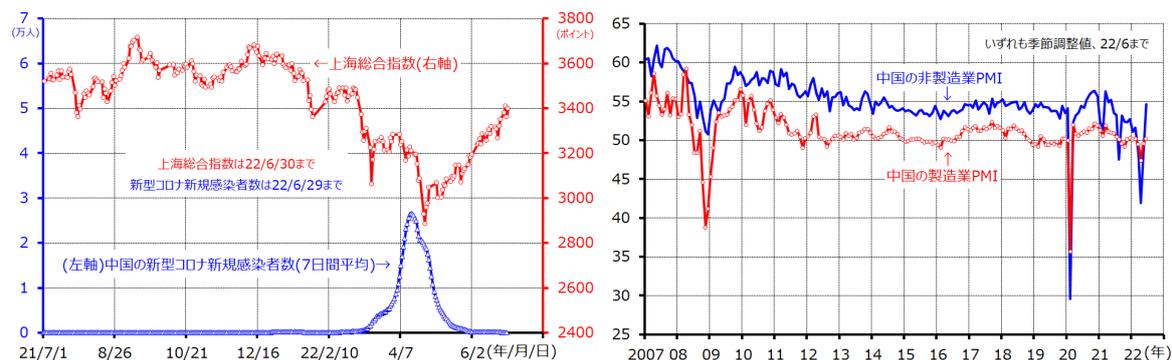
図表 2 : 米国の消費者信頼感指数と消費者態度指数



中国・上海市のトップは新型コロナへの「勝利」を宣言した

6/25 に上海市は、新型コロナの市中の新規感染者が 6/24 時点でゼロになったと発表した。新規感染者ゼロは 2/23 以来、約 4 カ月ぶりである。これを受けて、同市トップの李強・市共産党委員会書記は 6/25 に開幕した中国共産党上海市代表大会で、新型コロナへの「勝利」を宣言した。上海市は市民の外出を一律禁止する厳格なロックダウン（都市封鎖）を 6/1 に解除した後も、飲食店での店内飲食を禁止したほか、市民には少なくとも 3 日に 1 回の PCR 検査を受けることを事実上求めている。しかし、新規感染者ゼロの達成を受けて、それらの規制を今後は緩和し、市民生活の正常化を急ぐとみられる。実際に、3/21 から休園していた上海ディズニーランドは 6/30 から営業を再開した。また、6/28 に中国政府は、新型コロナ対策として海外からの入国者に求める隔離期間を短縮すると発表した（短縮開始の時期は明示しなかった）。すると、同日の上海株式市場では経済再開期待が高まり、上海総合指数は 4 日続伸して約 4 カ月ぶりの高値を付けた。6/30 に中国国家统计局が発表した 6 月の PMI が製造業・非製造業とも前月に比べて 2 カ月連続で上昇し、好不況の分岐点となる 50 を 4 カ月ぶりに回復したこともあり、目先の上海株式市場では中国の経済再開期待が続く可能性があろう。

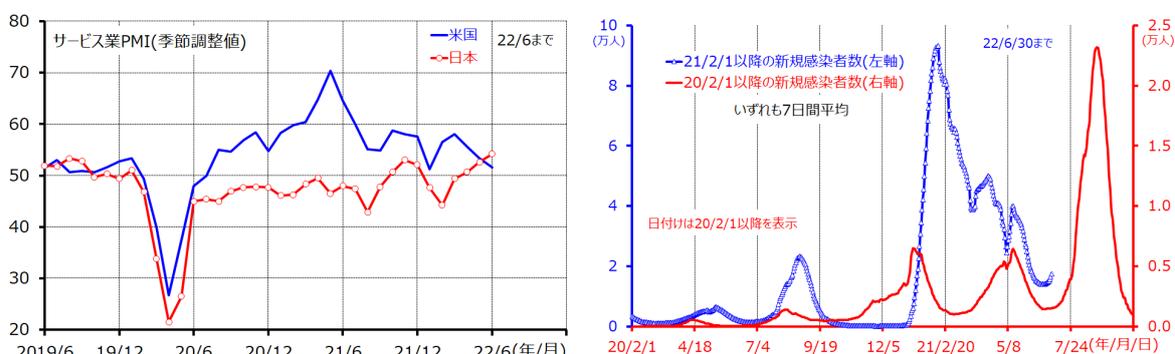
図表3：上海総合指数と中国の新型コロナ新規感染者数、中国の製造業 PMI と非製造業 PMI



(出所) Bloomberg、Our World in Data より大和総研作成

6/23 に S&P グローバルが発表した日本の6月のPMIでは、サービス業PMIが前月に比べて4カ月連続で上昇し、新型コロナ禍以降で最も高くなった。海外からの入国制限措置の緩和を受けて、観光業界を中心に景況感が回復した。一方、日本国内では新型コロナの新規感染者数が増加に転じたとみられる。昨年も概ね同じ時期から増加に転じ、新型コロナの変異ウイルス「デルタ型」の影響で夏場にかけて大幅に増加したことから、今年も注意が必要だろう。また、6/30に経済産業省が発表した5月の鉱工業生産指数が前月比で大幅に低下したことも注意が必要だが、上海市のロックダウンの影響が大きく、中国の経済再開による今後の回復が期待される。

図表4：米国と日本のサービス業PMI、日本の新型コロナ新規感染者数



(出所) Bloomberg、NHK より大和総研作成

図表5：日本の実質輸出指数と鉱工業生産指数



(出所) 日本銀行、経済産業省より大和総研作成